

学友委員会方針

学友委員会
委員長 廣渾 俊樹
(福島南 RC)

ロータリー学友

「学友」とは

以下のプログラムへの参加経験者

- ・インターアクト
- ・ローターアクト
- ・ロータリー青少年交換
- ・RYLA（ロータリー青少年指導者養成プログラム）
- ・ロータリー平和フェローシップ
- ・ロータリーの奨学生
- ・米山記念奨学生

2022-23 年度 RI テーマの一つ「つながり」

2022-23 年度 RI 年次目標

優先事項 1

「より大きなインパクトをもたらす」

目標 3. 新たなパートナーシップの構築

優先事項 3

「参加者の積極的なかかわりを促す」目標

2. 「ロータリー、ローターアクト、インターアクトクラブのすべての参加者の連携の強化」

2022-23 年度地区重点目標

4. ネットワークの構築

「ロータリーファミリーはもとより、私達の思いに賛同し活動する人々との交流」

「学友委員会」の役割

1. 地区の他の委員会、会員増強、財団、インターアクト、ローターアクト、RYLA、ロータリー 青少年交換などの委員会と協力して、学友とそのスキル（講演者、プロジェクト、会員候補者、ロータリー財団への寄付者、ロータリープログラムへの貢献者等）を特定し、それらの個人をクラブや地区の活動に結びつける。
2. プログラム間の相互推進活動を指揮し、奉仕の機会を推進する。

3. 学友とロータリーとの関係を維持する為、学友と協力する方法に関する認識を高める。
4. 学友にデータを RIO に報告するよう奨励し、地区委員長と協力してプログラムの参加者が正確に RI に報告されるよう奨励する。
5. 適切であれば、学友関係の行事や学友会を支援、調整する。(ロータリー章典)

学友委員会は、ロータリアンの理解を得、プログラム参加経験者のネットワークを構築し、一過性な活動に留まらず、その意志有る者に、更なる持続可能な活動の支援をする委員会です。

次世代への責任と義務

2530 地区のロータリアンは、私達の後を担う次世代に対する活動への理解を高める必要があります。

117 年もの間ロータリーが存続し活動をしてきたのは、それが良い活動であり、そしてその時々の後輩達がそれを理解し、先人の精神や意志を脈々と受け継いできたからです。

私達は後から来る者達に、その良い活動を伝える義務と責任があると考えます。

是非ご理解を頂き、次世代への活動に御協力を頂きますよう宜しくお願い致します。